

ESDfcPLT2016 記録

2016年7月30日 31日

■ ESD ファシリテーターズ・カレッジ 12時間コースの構成要素

■ ESDfc テーマ「環境」 セッション構成

ESDfc 12時間コース	会議名: ESDfc テーマ「環境」
□ 構成要素点検リスト	日時: 2016年7月30-31日
□ ESDの価値観と力	記録の場: Dropbox: 成果物
□ 「気づき」のための アクティビティ	セッション1. 共通基盤づくり
□ 「築き」のためのスキル	○ 折り鶴の折り紙 - 19羽の
□ 流れのあるプログラム	○ 研修への期待
□ テキスト本のイタダ	○ 話し合いの心がけ
□ アクティビティ開発	セッション2. 流れのあるプログラム
□ プログラム改善	○ 諸感覚と刺激する
□ かねえみ開発	セッション3. 折り紙とPLTの特徴
□ ESDの諸課題	経験学習
□ 個人的行動計画	セッション4. 特別なニーズの把握と 対応
□ 推進の課題	セッション5. アジャストプログラム
	セッション6. 折り紙と環境

■ 第一日 セッション1からセッション3

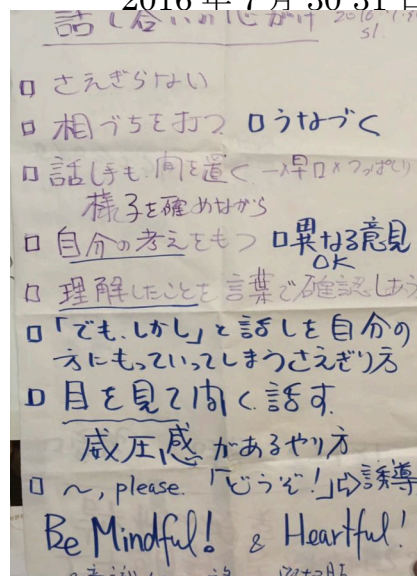
セッション1	セッション2	セッション3
1. 19羽の折り鶴	1. ものの形 視覚	1. 流れのある プログラム分析
2. 自己紹介 ○ 事件について ○ 文法	2. 木に触れよう 触覚	①~⑥ おおむね と向きたいと
3. 二日間の構成	3. パパ-ミンビヒル 嗅覚	2. 活動形態
7. ジャーナルづくり ○ ノートテイキング	4. かやみはどこ から? 痛覚	3. PLTの特徴
5. 傾聴 Active listening 話し手 聞き手	5. まわりの音	
6. 話し合いの心がけ 5つ	6. 詩人の木 想像力 警異	Sense of Wonder
7. ノートテイキング 12:45		

セッション1 共通基盤づくり

11:00-12:45

1. 19羽の折り鶴
2. 自己紹介

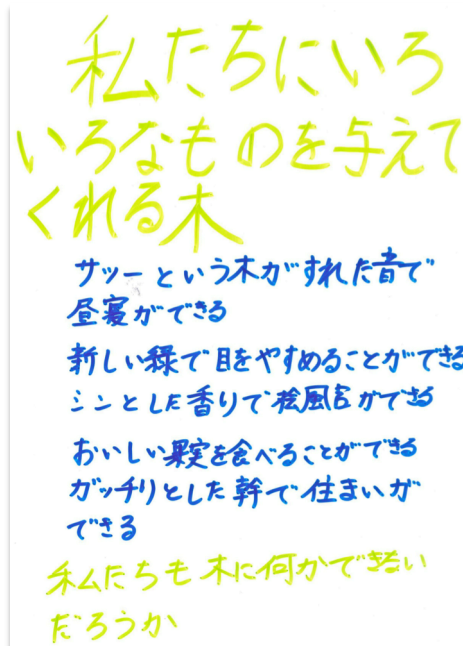
- (ア) 事件について
- (イ) スキル
- 3. ミニレクチャー「二日間の構成=12 時間研修の構成要素」
- 4. ジャーナルづくり&ノートテイキング
- 5. 傾聴
- 6. 話し合いの心がけ
- 7. ノートテイキング



セッション2 流れのあるプログラムの体験

14:00-16:00

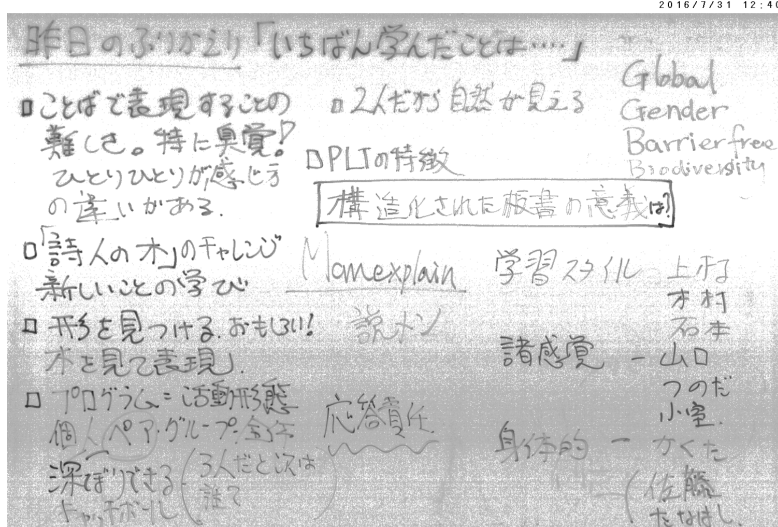
1. ものの形 [個人作業で公園へ移動]
2. 木に触れよう [ペア作業で視覚・触覚の対比]
3. ペパーミントビートル [全体作業で嗅覚の検討]
4. かゆみはどこから [全体作業で疑問点=痛覚?それとも?なぜ言語化が少ないのか?]
5. まわりの音 [個人作業でマップ]
6. 詩人の木 [グループ作業]  
想像力・驚異、Sense of Wonder!



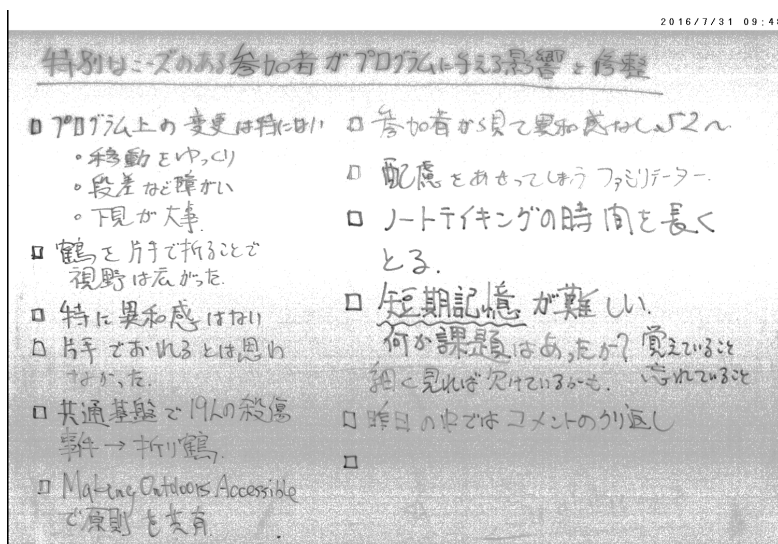








- (イ) 特別なニーズのある参加者が参加していたことで気づいたこと・感じたこと・学んだこと

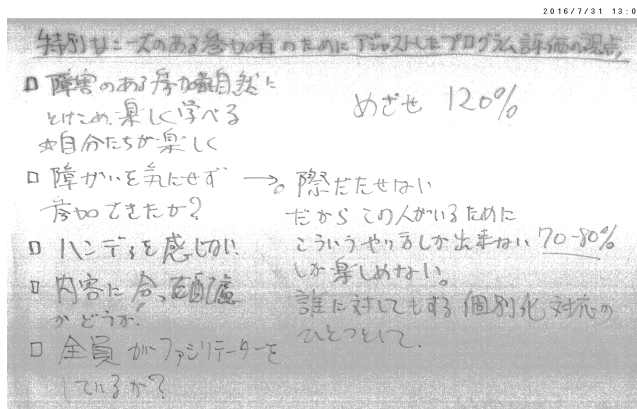


2. ノートテイキング
3. 感想と自己紹介
4. 三つの視点でアジャスト・アクティビティを考える
  - (ア) 諸感覚
  - (イ) 学習スタイル
  - (ウ) 身体的課題

## セッション5 アクティビティ実践

12:30-15:00

1. プログラム評価の視点を共有する



2. アクティビティ実践、各グループ 20分+10分ふりかえり

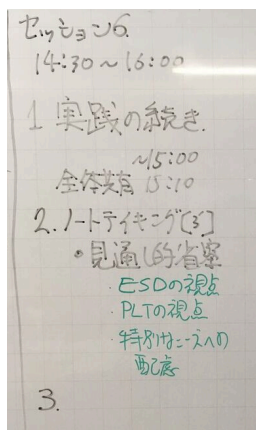
- (ア) 身体的チャレンジ
- (イ) 諸感覚のチャレンジ
- (ウ) 学習スタイルのチャレンジ

「特別なニーズに応えるプログラム」ふりかえりとまとめ		研修名				日付
アクティビティ	導入 ・ねらい・流れ ・準備物 ・作業の指示	技術的省察 How				実践的省察 Why 気づいたこと・感じたこと・学んだこと
		作業内容の流れ 個人作業	ペア作業	グループ作業	全体作業	
身体						ふりかえり・まとめ
感覚						
学習スタイル						

【プログラムについての見通しの省察 for What】

セッション6 ふりかえりとまとめ

15:00-16:00



1. アクティビティ実践継続

2. 特別なニーズのある参加者のためにアジャストするためのガイドラインや原則

特別なニーズのある参加者のための原則

- 1 参加者ごとに  
「バティ」をつける  
(. 参加者ごとの「バティ」をつける  
(. 参加者ごとの「バティ」をつける  
→ 参加者ごとの「バティ」をつける  
関係性により異なる)
- 2 下準備を入念にする  
(特別なニーズがある場合)
- 3 状況把握 (チームファシリテーター)  
→ 参加者ごとのニーズに対応する
- 4 参加者の能力を借りる  
(参加者ごとの「バティ」をつける)  
参加者ごとの「バティ」をつける  
・参加者ごとの「バティ」をつける  
(参加者ごとの「バティ」をつける)

- 5 "場" を工夫
- 6 ファシリテーター  
参加者 に対して  
対応できるようにする

3. 目指せ 120% のガイドライン

特別なニーズのある参加者のための原則

- 場の目的の事前を把握  
- 参加者ごとの「バティ」をつける  
- 参加者ごとの「バティ」をつける  
- 参加者ごとの「バティ」をつける  
- 参加者ごとの「バティ」をつける
- バティを組む一歩  
- バティを組む一歩  
- バティを組む一歩  
- バティを組む一歩
- 赤十字・バティを組む一歩  
- 赤十字・バティを組む一歩  
- 赤十字・バティを組む一歩  
- 赤十字・バティを組む一歩
- 緊急連絡一歩  
- 緊急連絡一歩  
- 緊急連絡一歩  
- 緊急連絡一歩

4. 二日間のふりかえり 環境教育で

GGBB の視点を忘れない!

5. 修了証 全員でサイン!

